

次期の業績見通し

今後も予断を許さない経営環境下において、当社は、全世界で通用する独自技術を活かした新製品の積極的な世界戦略展開により、業績の大幅向上を目指します。主な施策は以下の通りです。

デジタルカメラ事業は、ハイスピード技術をベースに、超高速連写機能と動画合成の独自技術を進化させ、“撮る”“創る”“見る”楽しさを追求する新しい写真文化の普及を進めます。また最新のカメラ技術とのシナジーをもった新事業の開発を推進します。

時計事業は、世界6局電波受信機能を中心とした高付加価値化、中国における電波時計のラインアップ拡充、女性向け新製品の投入、ブランド力の強化により高収益性を強力に推進します。

電子辞書事業は、国内市場においては引き続きNO.1シェアと高収益性を堅持し、中国を中心とした海外市場での拡販により、世界の教育市場におけるトップブランドを目指します。

携帯電話事業は、「タフネス・防水、カメラ」といった優位性のある技術をベースに、さらなる独自技術の融合により進化させた画期的な新ジャンルの製品を開発し、国内、米国、韓国を始めとした世界市場への投入を目指します。

デバイス事業は、抜本的な構造改革策の検討継続と並行して、独自技術に基づく新製品の開発を推進します。

2009年度業績見通し（連結）

売上高 5,300億円（前期比 + 2.3%）

営業利益 150億円（前期比 +273.5%）

経常利益 100億円（前期比 — ）

当期純利益 50億円（前期比 — ）

中長期的経営戦略

当社は、厳しい経済環境下においても継続的に企業価値を向上させてゆくため、各事業分野においてグローバルなコスト競争力を強化し高収益を確保できる強靱な収益基盤を構築するとともに財務体質の強化を図り、企業の社会的責任（CSR）をこれまで以上に果たすことが重要な課題と考えています。その実現に向け全社をあげて以下施策を推進しています。

1. 新ジャンルの確立

当グループは、時計や電子辞書など、すでに市場においてトップシェアを確保し、安定的なキャッシュ・フローの獲得が見込まれる事業を「基盤事業」、デジタルカメラや携帯電話など、巨大且つ成長途上の市場で参入企業が多く競争が激しい事業を「発展事業」と位置付けています。

今後、「基盤事業」はその位置付けをより磐石なものとするため、「発展事業」は熾烈な競争環境を勝ち抜き安定的な収益性を確保するため、刻々と変化する市場のニーズを的確に捉える商品企画力及び独自技術の融合により、ニーズを実現し且つ原価率を低減した新ジャンルの確立を各事業分野において進めていきます。

2. 新しい戦略事業の創出

当グループは、これまで独創的な発想と先進的な技術を駆使し様々な新しい製品を世の中に提供してきました。今後も着実に成長してゆくためには、現有事業に加え、当グループの技術を基軸とした他社には真似できない新しい事業領域での価値創造が不可欠と考えています。そのためこれまで以上に経営リソースを新規事業領域に集中させ、強靱な収益構造が実現できる事業の早期立ち上げを目指します。

株主の皆様におかれましては、なにとぞ当グループの経営方針にご理解をいただき、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

3. 財務体質の強化

当グループは、成長を支える財務基盤の強化に向けて自己資本比率及びD/Eレシオ（有利子負債/自己資本）の改善を推進しております。また、昨今の混迷する金融情勢下においては、手元流動資金の確保も重要な財務課題と認識しており、外部環境の変化を注視しつつ柔軟な対応を図ります。

今後も引き続き効率的キャッシュ・フローの徹底を図り、フリー・キャッシュ・フローの創造に努め、安定的且つ強靱な財務体質の構築に取り組みます。

4. CSR経営

企業の持続的成長は、地球社会の持続的発展があって初めて成り立つことから、当社はCSR経営に積極的に取り組んでいます。

従業員の行動指針を明文化した「カシオ創造憲章」のもと、社員、役員の一入ひとりが法規則の遵守、社会秩序の維持、社会への貢献などを理解、実践するよう徹底し、コーポレート・ガバナンスとコンプライアンスの向上につとめています。